

民見協だより

2019
6月15日

No.66



入間市民生委員・児童委員協議会

入間市豊岡1丁目16番1号 入間市役所福祉総務課 TEL2964-1111

主な内容

- ◆ 民生委員全体研修
- ◆ 藤沢第二民見協の活動
- ◆ フードバンク・子ども食堂
- ◆ 児童福祉部会活動紹介、他

平成30年度入間市 民見協全体研修



東京家政大学名誉教授
樋口恵子先生
講演

「2040年 超高齢社会に向けた 私たちの構想」 私たちの構想

平成30年11月21日(水)産業文化センターで、樋口恵子先生をお招きして、入間市民見協の全体研修会が開催されました。

来賓の入間市宮岡実福祉部長よりお言葉を戴きました。

約2時間、脚の状態があまり良くないのにも関わらず、立っただままでの熱い講演に、会場は大いに盛り上がりました。

地域包括ケアは「地産地消」

それぞれの地域の資源をうまく組み合わせて地域生活を支える。地域のサービスを地域に届ける。

老人と子どもの両世代は、地域から遠くには行かない。この人たちのケアは、地産地消としてできるだけ公平な形で、それぞれの地域で支えることだと思われる。地域の役割は、何よ

りも人々のケアである。地域の中で再生産されていくものと思う。

一人ひとりの多様性を認めたと上で、色々な立場の人たちに配慮する。関心を払う。

食・職・触

最近のテレビ番組では、医療・健康・食の安全等様々な情報を届けてくれています。

配食サービス、移動スーパー、地域での食事会等、実例もたくさんあります。

孤食は長生きできない？様々な生活環境があり、難しいとは思いますが、歩いて行ける範囲に共食の場をつくる。一緒に食べる。

人生百年時代の中、高齢者でも働ける場があれば週一度でも、人に感謝され、役立つ仕事をしたいものである。

血縁でなくても、支えられる地域とは？高齢者や子どもが出会いやすい街づくりをつくりたい。家族のいる人が減っていく

ファミレス社会になっていく中、人間関係の中での触れ合いが大事になる。心身ともに癒される社会を目指したい。

石川県のある新聞には、冠婚葬祭の欄がある。80代、90代が

死亡欄に掲載され、喪主がお孫さんのケースも多い。長寿社会の日本の一断面を示しているのかもしれない。

入間市には、「近隣助け合い活動推進協議会」があり、既に2地域で「ささえあい活動」が、更に自治会小単位でも、皆さんの協力を得ながら、活発に活動していると聞いています。ご健闘をお祈りしています。

藤沢第二民見協の活動

藤沢第二民見協は、入間市の南東部にあり、人口8300人、3800世帯、高齢者世帯率・高齢者世帯独居率ともに入間市ではトップです。民生委員・児童委員・主任児童委員合わせて、19名で日々、活動しています。

敬老会

毎年、敬老の日前後の土曜日に東藤沢公民館で実施します。東藤沢連合自治会主催で、市長、議長、県議会・地元市議会議員、関係者を来賓として盛大に開催します。

7月から約2ヶ月かけて、民生委員が、自分の担当地域の皆様にお声掛けさせて頂きます。

配食

毎月初めに、ボランティアの皆様が調理して頂きます。配食希望者のご家庭に民生委員がお弁当をお届けしています。

県外研修

一昨年、山古志村(当時)を訪問、中越地震での被害状況を「やまこし復興交流館」で研修しました。入間市でも様々な防災への取り組みをしています。ここ藤沢地区では、各自主催の防災会を一つにまとめ、各勉強会、研修会等を開催しています。

ささえあい東藤沢

ささえあい東藤沢は、設立8年目を迎え、地域の皆様と共に活動を続けてきています。民生委員も一緒に活動し、正月開催の落語会は、大会議室が満席となります。



フードバンクいるま

副代表の田中氏に

お話しを伺いました

「フードバンク」とは、まだ食べるこ
とができるのに、何らかの理由で捨て
られてしまう食
品を、企業や家
庭から寄付して
頂き、食べ物に
困っている家庭
に無償で提供する取り組みです。
「フードバンクいるま」は、2018
年5月に産声をあげました。その後、
市内で行われるイベントに積極的に参
加し、私たちの活動を知ってもらい、
食品を集めるのと同時に、この輪を少
しずつ広げてきました。



副代表
田中新吾氏



2019.01.16 入間市役所

また入間市長や入間市役所の全面的
な応援・支援を受け、今年の1月から
市役所の1階ロビーでフードドライブ
活動がスタートしました(毎月第3水
曜日11時から14時)。この取組みは、
「埼玉県では初めて」と聞いています。
これからも「フードバンクいるま」
は、食を通じて、社会のため、誰かの
ために何かしたいという人と人をつな
ぎ、地域をつくるお手伝いをしていき
ます。ご協力を頂ける企業・団体・個
人の方は、ぜひ事務局までご連絡いた
だければ嬉しいです。

活動内容の紹介

◆寄付された食料品の管理

各拠点に寄付された食品は、武蔵工
業団地内の倉庫に集められ、台帳に記



倉庫での作業 毎週月曜日 11時~16時

録してから、食品別・賞味期限別に棚
に保管されます。お米は小分けして2
リットルのペットボトルに入れます
が、ペットボトルの数も不足してい
て提供をお願いしたいとのことでした。
一方、食べ物に窮している家庭の事情
(家族構成や電気・ガス・水道の可否)
に合わせ、棚から必要な数の食品を取
り出して紙袋に詰め、生活支援課を通
じて必要とする家庭に提供されます。

《食品の提供を受けた方の声》

*子どもがお菓子を貰ってとても喜
んでいた。こんな支援や配慮は大変
嬉しい

*食費を浮かせることで、電気が止め
られなくて済む

*調理が出来るか?の配慮があつて助
かっている

*食料を提供してくれた企業の名前を
教えて下さい。余裕が出来たらその
企業のものを買います

《ボランティアスタッフの声》

いつか私も人のお世話になるかもし
れないので、出来る時はお手伝いした
い。また生き甲斐にもなるし、仲間と
一緒に作業していると楽しい。

◆幸せの黄色いレシート

イオングループのお店では、毎月11
日を「イオン・デー」とし、黄色いレ

シートを応援したい団体のボックスに
投函すると、レシートの合計金額の1
%をその団体の活動に役立ててもら
うキャンペーンを実施しています。フ
ードバンクでは、これを利用して必要
なものを購入しています。



2019.02.11
イオン入間

◆寄付して頂く食品について

賞味期限が1ヶ月以上あるもので常
温保存ができて未開封のもの。アルコ
ール類や栄養剤等は受取れません。

◆ミルク基金

ミルク基金として寄付して頂いたお
金は、赤ちゃんのミルクを購入するた
めだけに使い、都度月齢に合わせて購
入し、提供してします。

◆ボランティア募集

現在会員は50名、実際に活動してい
るスタッフは25名。無理なく継続する
ために、賛同して頂ける方を募集中。
また活動資金も不足しており、会員も
募集中とのこと、会費は年1000円。

◆問合せ先(フードバンクいるま事務局)

0800-6555-9804
メール foodbankiruma@gmail.com

子ども食堂

食に困った子ども向けに、無料や安価で食事を提供する取り組みとして始まった「子ども食堂」ですが、今では居場所づくりとしても、全国的に広がりを見せています。

本年度埼玉県では、次世代を担う子どもの居場所づくりや、貧困の連鎖の解消、虐待防止などに重点を置き、子ども食堂や無料の学習支援塾を、現在の160ヶ所から800ヶ所まで拡大させる方針です。

子ども食堂ネットワークいるま



村野裕子 氏

入間市の子ども食堂の状況について、代表の村野裕子さんにお話を伺いました。

「子ども食堂ネットワークいるま」

は2018年4月に発足しました。

入間市内で活動する子ども食堂のお手伝いをしています。発足して間もないので、わからないことが多く、毎月の会議では、いろいろな意見交換して、それぞれの活動の参考にしています。

入間市では現在7つの子ども食堂が活動しています。参加できるのは、子ども以外にも、子ども同伴の父母やおじいちゃん・おばあちゃんも大歓迎です。

最近子ども会や地域の催し、交流の

機会が少なくなっています。子ども食堂では、皆が楽しく交流出来る場を提供しています。子どもは遊んだり勉強したり、大人はお喋りをしたり。

2019年3月現在、活動している子ども食堂は、ハッピーコミュニティ食堂、ムササビ食堂、東町にここ広場、あいくる・みんなの広場、久保稲荷なかよし広場、ふじさわキッチン「ふじキチ」、宮寺・二本木地区「い

ただきまゝすの会」。

社会福祉協議会が、お問合せ等の窓口となっています。

東町にここ広場

現在活動している子ども食堂のひとつ「東町にここ広場」の代表、山岡信幸さんにお話を伺いました。

この子ども食堂の始まりは、青少年活動センターでボランティア活動をしている「むささび食堂」のメンバーが、地域にも広げようと、東町公民館でひまわり食堂を開いたことでした。

その後、東町の力でやってみようという声が出て、「東町にここ広場」を立ち上げました。むささび食堂の皆様にはとても感謝しています。

毎回、保育園、幼稚園、小、中学校に声をかけています。子どもの居場所作りで始めましたが、いつの間にか高齢者の居場所にもなっています。最初は少人数のボランティアの方がお手伝いしてくれましたが、口コミでどんどん集まり、地

域の異年齢交流の輪が広まりました。

地域の方々にお米や野菜の寄付をして頂き、食費や参加費も抑えられて助かっています。ボランティアの女性達はお喋りしながら食事を作るのが楽しくてボケ防止にもなるし、子ども達から「ありがとう」と言われると嬉しくて、また作りたくなるそうです。「ありがとう」は魔法の言葉です。



食の他に、学習支援、遊び、バザー、人形作りなどの工作、紙芝居などを同時に開いています。子どもたちは自由に遊べます。

学習をしている中学男子生徒は「地域の人と触れあえて楽しいです。またマンツーマンで解るまで勉強を教えてくださいるので有り難いです」と話してくれました。

山岡さんは「東町にここ広場」を年3回から6回に増やしますと、張り切っていました。

ヘルプマーク

ヘルプマークとは義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方など、外見から分かる方々も援助や配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が作成したマークです。



埼玉県では平成28年4月「埼玉県共生社会づくり条例」に基づく取組として始まり、平成30年7月23日に入間市でも県からの依頼を受け配付を開始し、平成31年1月までに250人を超える方に配付しております。

ヘルプマークを身に着けた方を見かけた場合は、電車・バス内であれば席をゆずるなどの配慮、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。

ヘルプマークの配付対象者は義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、妊娠初期の方等です。希望する方に市役所障害者支援課窓口で配付しています。(簡単な聞き取りがあります)

児童福祉部会の活動紹介

9地区39名の委員で構成されている当部会は、

- ① 児童福祉についての研修
- ② 日常的な子ども見守り
- ③ 施設の視察研修

を目標に、会員一同日々活動しています。平成30年度の活動においても、児童福祉について勉強したり、児童虐待サポート研修に参加し、全員の知識向上を図りました。

毎月の役員会においては、各部署員が無理なく、楽しく参加できるように心がけ活発な意見交換をしています。そんななか会員の参加意識も上がり、出席率の向上にも繋がっています。

今後も会員同士の絆を深め、民生委員・児童委員の活動に努めてまいります。



児童福祉部会県外視察研修(茨波愛児園2018.9.21)

ふじっ子の会

「ふじっ子の会」は、子供達の健全な育成をお手伝いしようという発想から出発し、藤沢第一児童協の主要行事の一つです。毎年2回開催され、児童福祉部会が中心となり進めているものです。約15年継続しています

昨年12月8日には、藤沢地区に住む男女25名の小学生が集い、深緑の大小6本のモミの木飾り付けに挑戦しました。



親子と言うよりも孫のような子供達に、民児協の皆さんが寄り添いモミの木に飾る、折り紙や短冊の作り方、飾り付けを熱心に教えていました。短冊には夢・希望・目標が書かれています。どの顔も真剣そのものでした。そこには世代を超えた会話が生まれ、交流がありました。

その後、民児協の女性達がつ作ったカラーを参加者全員でご馳走になり、「格別の味」を堪能しました

帰り際、達成感で上気した顔の子供達一人ひとりにプレゼントが渡されました。色とりどりの飾り付けを終えたクリスマスツリーは藤沢公民館、藤の台公民館、そして子供達の所属するそれぞれの小学校に飾られました。

高齢化社会への上手な対応

高齢者とは満65歳以上、後期高齢者とは満75歳以上の方を呼びます。高齢者社会に対応できる地域の対応がとて大切です。

まず高齢者になったら、自分の居住区の民生・児童委員が誰であるかを知っておくことが大切です。民生・児童委員は各市町村の人口に比例して人数が配置されています。分からなければ役所に連絡して教えてもらうこともできます。

- ① 父親の認知症介護に不安と疲労が重なりイライラしていつも父親を怒鳴ってしまう
 - ② 将来認知症などの病気になった際の財産管理が心配
 - ③ 老老介護の問題
 - ④ 最近横行しつつある新車の悪徳業者にはどのようなものがあるか
 - ⑤ 振込詐欺・オレオレ詐欺の被害にあつてしまわないか不安
 - ⑥ 覚えのないメールが携帯電話に度々送られてきて困っている
- もし、これらの例に思い当たることがある、またはその他、毎日の生活の中で不安なことがある場合は民生委員に相談してください。特に⑤や⑥に該当する場合は警察にも連絡して下さい。

編集後記

これからの益々の高齢化と少子化のために民生・児童委員と主任児童委員が連携を深め、高齢化社会に対応する必要があるとあります。

最近「共に生きる」とか「共生社会」ということばをよく耳にします。

高齢化が進むにつれて、福祉関係の費用が行政の財政を圧迫しています。このような状況のなかで「なるべく行政に頼らず、出来ることはお互いに助け合っていきたい」という取組みが入間市でも盛んに行われています。今回はその中の「フードバンク」と「子ども食堂」を中心に取材しました。

スタッフは全員ボランティア、誰かのためにお手伝い出来る喜び、仲間と一緒に活動しながらの楽しいお喋り、いつかは自分もお世話になるかもしれないという責任感、皆さん意欲的に取り組んでおられます。こうした輪がどんどん広がっていけば、安定した高齢化社会を迎えられる、と確信しました。

「民児協だより」は、今年から6月15日発行分は民生委員と関係機関のみ、12月15日発行分は入間市全戸配布に変更になりました。